同志社大学

文学部

LETTERS OF FACULTY

2025

英文学科　哲学科　美学芸術学科　文化史学科　国文学科

同志社大学文学部で、

人の営みをひもとく。

「ひもとく」。本来、漢字では「繙く」と書きます。
「覆いを外し、本を開いて読む」という意味ですが、
近年では「紐解く」と表記されることも。
「解き明かす」「真実を明らかにする」といった意味でも使われ始め、
これまでとは違う概念になりつつあります。

言葉は生き物。人とともに常にゆらぎ、変わってゆくのです。

文学部が扱う「人文学」とは、人々が残したさまざまな文化をヒントに
「人間とは何か」を理解しようとする、はじまりの学問。
先人たちの知見を学ぶことで、うつろいゆく言葉や人の想いを捉え、
実体のない問いに答えを見出す力を養います。

同志社大学文学部は、創立以来約150年もの伝統の中で、
人文学の真髄を探究し続けてきました。
共に、人々が積み重ねてきた営みをひもといてみませんか。

人文学を究める同志社大学文学部の

4つのアプローチ

専門分野を 深く 学ぶ

各学科の専門性を高めることを重要視する同志社大学文学部では、1年次から少人数制の演習科目を設け、早期から専門性の高い教養を身につけられます。3年次にはすべての学生がゼミに所属し、自分の興味のある分野について学びを深められます。

分野を超え 広く 学ぶ

同志社大学文学部には、所属学科で専門性を深めながら、他分野から知見を広められる「副専攻制度」が存在します。「学科型副専攻」、「横断型副専攻」、「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」の3タイプから選択し、研究テーマを多角的に追究することができます。

伝統文化の息づく 京都 で学ぶ

日本文化の故郷であり、国内外から多くの人が訪れる京都。有形・無形を問わず数々の国宝や文化財に囲まれ、多様な文化が融合する京都での生活は、学科での学びを本物の経験へと昇華させます。磨かれた豊かな感性と教養は一生の財産となります。

国境を越え 世界 で学ぶ

同志社大学が掲げる「国際主義」のもと、文学部生は積極的に留学に挑戦しています。未知の文化や価値観に五感で触れる体験は、語学力だけでなく真に世界に通じる“ものの見方”を養います。また、学内の国際交流においてもグローバルな視点が身につけられます。

学生座談会

私にとっての「文学部」

触れ合い、深め合うそれぞれの学び

美学芸術学科 3年次生
湯 震（トウ シン）さん

英文学科 4年次生
安酸 雛子（やすかた ひなこ）さん

2024年度 学部長
美学芸術学科
伊達 立晶（だて たつあき）教授

国文学科 3年次生
今井 美希（いまい みき）さん

今出川キャンパス内、クラーク記念館（国の重要文化財に指定）で実施

同じ文学部に所属している学生でも、その学びの内容は千差万別。
今出川キャンパスで日々人文学を学ぶ3名の学生に、それぞれが経験した文学部での学びとその魅力を語っていただきます。

同志社大学文学部との出会い

伊達：まずは皆さんが同志社大学へ入学した理由をお伺いしたいと思います。

安酸：私は充実した留学制度が入学の決め手です。イギリスのケンブリッジ大学で本場の英米文学を学びたいという想いがあり、4年間の学士課程の中で留学に挑戦できる同志社大学文学部を選びました。

今井：私は安酸さんとは対照的に、日本文化をより深く理解したいと考えたのが理由です。中学3年生の時に経験した留学をきっかけに、自国のことをほとんど知らない自分に気づかされ、もともと興味を持っていた日本文学を深めるために国文学科に入学しました。

湯：私は海外で自身の視野を広めたいと考えていたこと、そして以前から関心のあった芸術を学問として学びたいという想いがあったことから美学芸術学科に入学。京都と言えば「伝統的な日本文化の中心地」という印象が強かったのですが、入学後にそのイメージはガラッと変わりました。岡崎エリアの数々の美術館や市内で盛んに開催される芸術祭に足を運ぶうち、京都は近現代のアートや海外の芸術作品も集

まる総合的な芸術都市なのだと実感しました。

安酸：確かに、京都に息づく文化は世間の認識よりもずっと幅広いですよね。私も学生生活を送る中で、「活気ある学生のまち」や「国内外の文化が混ざり合う国際都市」など、京都のあらゆる表情を知りました。

伊達：京都は古今東西の文化の結節点。キャンパスのすぐそばで多様な文化体験を享受できるのは本学の大きな魅力ですね。私たちが今いるクラーク記念館もその代表例です。西洋風の建築様式や礼拝堂に目を向けると、本学の教育理念であるキリスト教主義の歴史を感じられます。単なる「情報」としてではなく、こうした「体験」として文化に触れることは、その後の学びを深める良い契機にもなります。

三者三様の学びと成長

伊達：次に、それぞれの入学後に印象的だった経験についてお聞きしたいと思います。

安酸：留学先のケンブリッジ大学では、難解な古英語の読解など日々ハイレベルな講義についていくのに必死でした。言語のハードルもありくじけそうになる瞬間もありましたが、共に渡英した仲間たちと協力して乗りこえられました。

湯：私も日本に来たばかりの頃は言葉の壁に悩まされることが多かったです。しかし、他の学生と講義の内容について議論したり、分からないところを互いに補いあったりするうちに日本語に慣れ、専門の学びも深められました。

伊達：お二人とも異国の地ならではの経験を積まれたのですね。今井さんはいかがでしょうか。

今井：私は当初学ぼうとしていた日本文学だけではなく、幅広い分野を学びたいと考えるようになりました。そして現在は他学部の講義なども受講できる横断型の副専攻制度を利用しています。文学部の他学科や他学部の学

生・教員と交流する中で、物事を多角的に捉える視点が培われていると実感しています。

KEYWORDS

▷ 留学制度

文学部では、学生の海外留学を積極的に支援しています。大学全体で実施している派遣留学プログラムはもちろん、文学部が独自に学生交換協定を締結している、台湾の国立政治大学およびドイツのケルン大学への留学プログラムにも挑戦できます。また、本学の所属研究員も世界中の研究機関と連携し、積極的に共同研究や国際シンポジウムに参画。国内にいながら、第一線の国際規模における研究内容を学べます。

▷ キリスト教主義

今出川キャンパスにはキリスト教に基づくさまざまな資産が保全されています。全学共通科目の同志社科目群やチャペルアワーなどを通し、キリスト教文化を体験できます。

▷ 副専攻制度

所属学科の専門教育とは別に、学びのチャンスを広げるために設けられた制度です。

学科型
- 英文学コース
- 哲学コース
- 美学芸術学コース
- 文化史学コース
- 国文学コース

横断型
- 人文学総合コース
- メディア文化コース
- アジア文化コース
- 国際専修コース

サイエンスコミュニケーター養成
科学分野でおこる社会問題を正しく読み解き、解説できる力を身につけます。

同志社大学文学部の魅力とは?

伊達：最後に、同志社大学文学部の魅力とは何かを教えてください。

安酸：「『好き』を追求できる環境があること」だと思います。同志社大学には、学生の自由な知的好奇心を支えてくれる、個性豊かな教授陣と充実した学習環境があります。何か一つのことを究めたいと考えている方には理想的な学びの場ではないでしょうか。

今井：私は、多様な考え方を持った学生に溢れていること、そして他者の考えを受け入れられる学生が多いことだと考えます。私自身も、分野を超えあらゆる学びに向かって進む学生と触れ合い、思考の幅を広められました。

湯：そうですね。その中で同じ志を持った学友と出会えることには大きな魅力を感じています。また、今出川キャンパスには多くの留学生が在籍しています。世界各地から集う学生たちと互いの国について理解を深め、自分のアイデンティティを再認識することもできました。

伊達：同志社大学ではさまざまな個性を持った学生が交流を深め、共に学問を究めています。皆さんも3人のように、本学でかけがえのない出会いと学びに恵まれるよう、願っています。

あなたにとっての「同志社大学文学部」とはどんな存在ですか？

さまざまな想いと世界を魅せてくれる万華鏡
／今井 美希 さん

時空を超えた、文化の学究の場
／安酸 雛子 さん

学生の学びを見守り、森羅万象の蘊奥（うんおう）を照らし出す光
／湯 震 さん

英文学科

Department of English

高度な英語力と教養を手に、世界への扉を開く

英文学科は同志社英学校（1875年開校）から受け継ぐ伝統を進化させながら、世界に目を向けた真の国際人を育成しています。グローバル社会に必須である「英語」を徹底的に鍛え、培った英語力を活かして「英米文学・英米文化」と「英語学・英語教育」の2つの専門分野を深く学びます。また少人数クラスやレベル別クラスで「聞く・話す・読む・書く」の4つのスキルを強化。専門教育での学びを通じて、国際人として必要とされる高度な分析力、論理的思考力や豊かな自己表現力を養います。

英文学科では、さまざまな関心とレベルに対応する実践的な英語クラスも数多く開講しています。幅広いトピックを扱うネイティブ・スピーカーによるクラスのみならず、通訳や翻訳などの高度な技能を身につけるためのクラスも設けています。留学者数は学内でトップレベルで、充実した留学サポートがあるのも本学科の特長です。グローバルな教養を備え、広い視野を持って社会で活躍したいと考える人のために、最適な学びの場を提供します。

学びのキーワード

1 1年次導入ゼミ

英文学科の新入生が、大学という新しい環境にスムーズに順応できるように導く少人数形式の授業。安心して大学生活のスタートを切ることができます。

2 レベル別少人数制クラス

「英語コミュニケーション能力養成プログラム」では、必修・選択科目ともレベル別クラスを設置。一人ひとりに合った授業で、英語力の強化を図ります。

3 留学プログラム

希望者を対象に、学科独自のセメスタープログラムを実施しています。留学を志す学生への充実したサポートもあります。

取得可能な資格

中学校教諭一種（英語）／高等学校教諭一種（英語）／博物館学芸員※／図書館司書※／学校図書館司書教諭※／小学校教諭一種※

※全学科共通で取得可能な資格

科目紹介

Academic Skills

1年次生対象の導入クラス。学習計画の立て方を学び、資料収集やディスカッション、口頭発表をグループで行いレポートにまとめることで、大学で必要な学びの基礎力を身につけます。

TOEFL Preparation

TOEFL® 対策の必修クラス。TOEFL® 指導経験の豊富な教員が担当します。受験のための導入を行うとともに、団体向けテキストプログラムを活用し実力養成の手助けをします。

留学ワークショップ

海外留学を希望する人のための準備クラス。TOEFL iBT® 対策をはじめとした実践的な練習を積み、同時に留学経験者の体験談を聞く機会を設けることで留学へのモチベーションを高めます。

ゼミ紹介

水藤 洋子 さん
4年次生
〈演習担当者〉
桐山 恵子 教授

ご自身の研究テーマを教えてください

ヴィクトリア朝時代のイギリスで執筆された怪奇幻想文学を研究しています。この時代には、謎や超自然現象にまつわる非現実的な出来事をテーマにした作品が数多く生まれました。当時は大衆向けの娯楽小説として扱われていたようなジャンルにも、そのテキストの中に学術研究の題材となり得る論点が潜んでいるのが興味深いです。

ゼミの先生の魅力は何ですか

研究に対するプロフェッショナルな姿勢です。執筆された時代の風潮や作家の人生などの背景までも考慮し、物語で起きる出来事一つひとつの意味について考えながら作品と向き合うことを学びました。先生のもとで文学研究を学ぶ中で、単純な読書からは得られない驚きや気づきと出会い、小説との新しい向き合い方を見つけられました。

ゼミでどのような力が身につきましたか

文学作品で描かれる登場人物の言動や情景などさまざまな事柄を手がかりにして、物語の真相や隠された作者の意図を考察する力が身につきました。今までは読み飛ばしてしまっていた細かな描写にも着目して考える経験を重ねることで、分析力はもちろん、根拠にもとづいて自分の意見を主張できるようになりました。

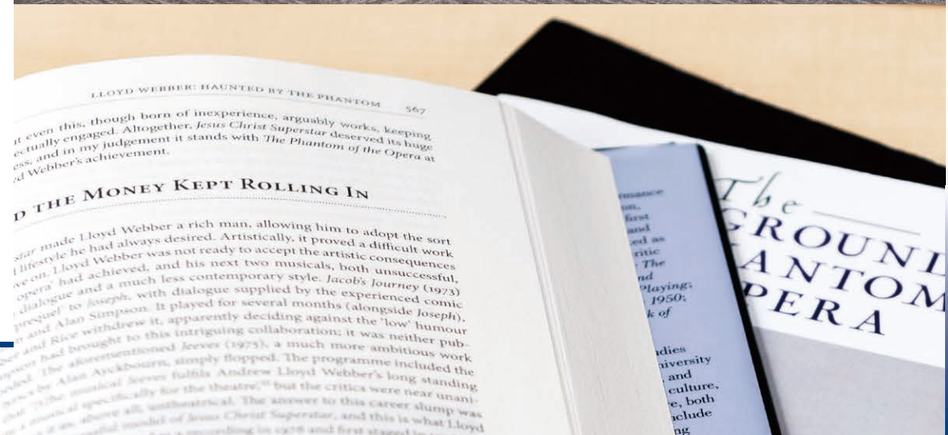
学びを深めた言葉との出会い

「怪物が棲む場所は、常にその時代の日常世界がおよぶ領域から逆算されるのだ。」
―坂本光『英国ゴシック小説の系譜 『フランケンシュタイン』からワイルドまで』
グローバル化や科学技術の発展により、人間にとって未知の領域が減ったことが、文学作品に描かれる怪物の出現地に影響を与えていると示す一節。文学作品の変遷を追う面白さを実感させてくれました。

学びをひもとくQ&A

Q. 英文学科ではグローバル社会の動向を見据え何が学べますか?

A. 少人数クラスで、海外留学に通用する実践的でアカデミックな英語力をバランス良く学べます。また、自由に選べるゼミで、さまざまな英語圏文学や文化のテキストを批判的に読み、教養・感性・洞察力を鍛え、世界の言語や言語教育の諸問題に科学的に取り組み、論理的思考力や客観的データに基づく問題解決力も磨けます。



Read More

多彩な教員が演習を担当します　教員紹介

英文学科での学びをより深く知る　シラバス検索　学科サイト

哲学科

Department of Philosophy

物事を原理的に突き詰め、確かな目を育てる

「よく生きる」とはどういうことか。この根本的な問いから生まれたのが哲学です。本学科では、古典に学び、実社会の現象を原理的かつ批判的に考え抜く力を養います。同志社大学の原点である「良心教育」。これを哲学の本質に関わるものと捉え、単に知識を得るだけでなく、良心を基軸として問題に立ち向かう「人格主義」を重視しています。

哲学の学びの内実は、人間の本質と、世の中の本質を解明することです。具体的にイメージするために、3つのキーワードを挙げましょう。「哲学・倫理学の古典を学ぶ」、「現代倫理・現代社会を学ぶ」、「宗教・文化を学ぶ」。これらの学びを通して、社会との関わりが問い返されます。また、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語は外国書講読を設けており、語学力を磨いて留学し、哲学者たちが生きた場所でその思想に触れる学生もいます。この4年間で人間と世界の本質を探究し、羅針盤なき時代を生き抜く確かな目を鍛えてください。

学びのキーワード

1 哲学と社会との関わりを考える

物事を考え抜き、提言を行う態度は、社会のどのような分野でも必要とされており、現代社会の諸問題を解決するためには必要不可欠です。

2 現代倫理・現代社会を学ぶ

現代社会のさまざまな問題をきっかけにして、探究を進めます。先人たちの知恵に耳を傾けて、問いを深めていきます。

3 宗教・文化を学ぶ

宗教と人間の関わりや、多文化共生について考えを深めます。実社会でも応用の利く「知恵」の習得を目指します。

取得可能な資格

中学校教諭一種（社会）／高等学校教諭一種（地理歴史、公民）／博物館学芸員※／図書館司書※／学校図書館司書教諭※／小学校教諭一種※

※全学科共通で取得可能な資格

科目紹介

哲学基礎演習（1）・（2）

1年次の人文演習で身につけたアカデミック・スキルを用いて、哲学者の原典に本格的に取り組みます。古典的な哲学書で展開される緻密な理論を少人数のゼミ形式で読解・発表・レポートにすることを学びます。

社会哲学（1）・（2）

社会的存在としての人間のあり方を、社会性の根本にある自己と他者の関係性についての現象学的考察を手掛かりに考察し、社会的認知などの現代的論題に対する哲学の寄与可能性について学びます。

科学哲学（1）・（2）

数学者であり哲学者であるホワイトヘッドの著書を読み解き、哲学的考察に着手することで、ニュートン力学や相対性理論の科学的説明の基底的構造に迫ります。

ゼミ紹介

山内 勢楠 さん
4年次生
〈演習担当者〉
中川 明才 教授

ご自身の研究テーマを教えてください

近現代ドイツの哲学者、ニーチェの提唱した哲学的概念である「力への意志」について研究しています。力への意志とは「人間を動かす根源的な動機」を指しますが、彼は自身の著書において、より難解でいくつもの意味を持つ思想を表しています。現在に至るまでさまざまな解釈が試みられており、私もこのテーマに対して新たな解釈を加えたいと考えています。

ゼミの先生の魅力は何ですか

学生の研究を親身になってサポートしてくださるところです。テキストの解釈が難しく、読解が進められない際にはアドバイスをいただいたり、演習では学生が円滑に議論を進められるようにガイドラインを示していただいたりと、学生が理解を深められるようにさまざまな支援をしてくださいます。

ゼミでどのような力が身につきましたか

発表や質疑応答の機会を通して、自分の思考を整理する力や、それを相手に伝える力を鍛えることができます。また、相手からの意見を正しく解釈する理解力も身につきました。少人数のゼミで学生同士の交流も多く、議論を重ねる中で、物事を多面的に考えることで視野を広められたと感じます。

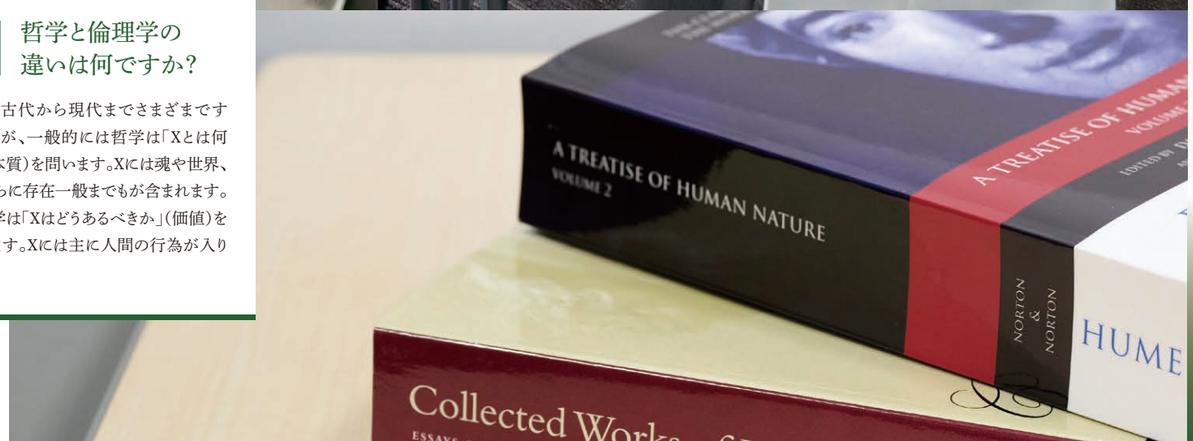
学びを深めた言葉との出会い

「対話の実践は、普遍的な真理をこの場に実現すること、つまり哲学そのものなのです」
―納富信留『対話の技法』
哲学科に入学して初めて教授から勧められた本です。理解しているようでしていなかった「対話」の精神を持ち続ける大切さを学ぶことができ、哲学科に進学して良かったという気持ちになりました。

学びをひもとくQ&A

Q. 哲学と倫理学の違いは何ですか？

A. 古代から現代までさまざまですが、一般的には哲学は「Xとは何か」（本質）を問います。Xには魂や世界、神、さらに存在一般までもが含まれます。倫理学は「Xはどうあるべきか」（価値）を問います。Xには主に人間の行為が入ります。



Read More

多彩な教員が演習を担当します　教員紹介

哲学科での学びをより深く知る　シラバス検索　学科サイト

美学芸術学科

Department of Aesthetics and Art Theory

美と芸術を多角的に学び、豊かな感性と知性を磨く

（上）京都市学校歴史博物館での実地演習
（下）太田喜二郎『ロドデンドロン』元小川小学校蔵（京都市学校歴史博物館管理）

「美学」「芸術学」「芸術史（美術史）」という3つの視点から美と芸術を考察し、そのメカニズムを導き出すのが美学芸術学科の学びです。「美学」では、美や芸術とは何かを哲学的に考え、「芸術学」では芸術の原理を多角的に分析、「芸術史」では、具体的な芸術作品を歴史的な展開の中で捉えます。これら3領域を体系的に学ぶことで、普段何気なく感じている美や芸術の本質と多様性を認識し、繊細かつ豊かな感性とそれを表現できる知性を養います。

実際の芸術に触れる「美学芸術学実地演習」では、さまざまな展覧会や公演を見学する他、京都の寺社や歴史的建造物の見学を実施。教室で学ぶ理論を生きたものにするとともに、座学にも刺激となって相乗効果をもたらします。また、本学科には個性の光るユニークな学生が多く在籍。卒業生は、マスコミやファッション・インテリア関係など感性を活かす業界や創作の世界など、多方面で活躍しています。皆さんの個性を最大限に伸ばせる環境の中で、美と芸術の本質を探究してください。

学びのキーワード

1 美術史

美術作品の形の特質や意味、背後にある思想を分析して歴史の中に位置づけ、さらに歴史を超越した美的価値を見出すことで人間の創造活動の成果と本質を明らかにする学問です。

2 現代アート

現代美術からマンガやアニメにいたるまで、多様な表現に見られる芸術性や美意識も研究の対象となります。

3 学芸員・教員・司書

美術館・博物館の学芸員、中学校や高校の教員、あるいは図書館司書の資格を取得することができます。

取得可能な資格

中学校教諭一種（社会）／高等学校教諭一種（地理歴史、公民）／博物館学芸員*／図書館司書*／学校図書館司書教諭*／小学校教諭一種*

※全学科共通で取得可能な資格

科目紹介

美学芸術学基礎演習Ⅰ・Ⅱ

1・2年次生を対象とした演習科目。資料の収集や読解、論述、研究発表、討論など、美学・芸術学を学ぶための基礎知識や方法論を実践的に習得し、3年次からの専門的研究に備えます。

現代芸術論Ⅱ

20世紀後半以降の現代美術の流れを通観しながら、同時代の美術史家や思想家の美術に対する捉え方が変化していることに焦点をあてます。また同時代の社会情勢にも目配りをします。

美学芸術学実地演習Ⅰ・Ⅱ

さまざまな展覧会や公演を見学する他、京都の寺社や歴史的建造物の見学会を実施。芸術への理解を深め、豊かな感性を育むとともに教室で学ぶ理論を生きたものにします。

ゼミ紹介

西村 早智 さん
4年次生
〈演習担当者〉
佐藤 守弘 教授

ご自身の研究テーマを教えてください

化粧品メーカーの雑誌広告のイメージの分析から、広告に表現されている女性像や、広告主であるブランド・作者の意図を読み解く研究をしています。もともと身の回りにあふれる広告などの視覚文化に関心があり、学科の専門科目で広告を専門とされている佐藤先生の講義を受講したことがきっかけでゼミを志望しました。

ゼミでどのような力が身につきましたか

自分の研究対象に対して、あらゆる角度から考察する力がついたと実感しています。私の所属するゼミでは学期ごとに個人の研究発表があるのですが、他のゼミ生が扱っているテーマは広告だけではなく、写真や映画、お笑いなどさまざま。発表を通じて、多種多様な芸術についてジャンルを問わず学ぶことができました。

ゼミの先生の魅力は何ですか

ゼミ生のあらゆる研究テーマに対して的確な意見とアドバイスをしていただけることです。先生はご自身の専門分野に限らず、美学芸術学に関して幅広い知識をお持ちです。研究発表の後には、学生一人ひとりに対して発表内容をもとに参考文献や研究方法の提案をしてくださるなど、手厚いフォローアップのもとで研究を進められます。

学びを深めた言葉との出会い

「広告を<見る人=購買者>は、その商品を買えば変わるであろう自分自身の姿をうらやむように仕向けられている。」
―ジョン・バージャー著、伊藤俊治訳『イメージ　視覚とメディア』
1年次の一番初めの演習発表で扱った書籍の一説です。広告には単に商品やブランドを魅力的に見せるだけでなく、見る人の想像力をかき立てるという特別な力があることを知るきっかけになりました。

学びをひもとくQ&A

Q. どのような芸術作品が研究対象となりますか?

A. 美学芸術学科では、日本や世界の芸術作品（絵画、彫刻、現代アート、音楽、文学）や、美や芸術に関する理論を主な研究対象としますが、それだけでなく、現代の私たちの身の回りにあるような文化（マンガ／アニメやファッションなど）を扱うこともできます。

Read More

多彩な教員が演習を担当します　教員紹介

美学芸術学科での学びをより深く知る　シラバス検索　学科サイト

文化史学科

Department of Cultural History

多様な視点から歴史を学び、現在と未来の世界を考える

（上）竪穴古墳群の発掘調査（京都府木津川市）
（下）縄文土器（文化史学科所蔵）

高校の歴史で「文化史」と言うと、思想・宗教・学問・芸術などの狭い分野を対象としてきたのではないでしょうか。私たちの文化史学科では、そうした狭い意味での文化も含めて、社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される価値観・思考様式・行動様式を文化ととらえます。したがって、政治（政策・外交・戦争）から、経済・産業のシステムや教育・医療などの制度、さらには日常生活（衣食住・習慣・祭礼・娯楽）にまで及ぶ人間の営みを対象として、総合的な視野で歴史を考察します。

大学卒業後にさまざまな方面で活躍することになる皆さんには、そのときに生きる「現在」だけではなく、数世代先の「未来」をより良くするための展望を持っていただきたい。そのためには、時には冷徹に、時には敬意や共感を込めて「過去」における人間の営みを振り返ることが何にもまして大切になります。歴史を探ることで、現在の社会や自己を見つめ直し、人類が進むべき道を問い続ける、そういう人物を養成したいと思います。

学びのキーワード

1 史跡としてのキャンパス

京都御所と相国寺にほど近い立地で、さらに敷地内には重要文化財に指定された明治時代のレンガ建築も。豊富な史跡に囲まれた環境です。

2 歴史遺産の街・京都

ひとたびキャンパスを出れば、そこは歴史と文化が息づく街・京都。数多く存在する寺社へと足を運び、歴史を直に体感できます。

3 日本・アジア・西洋

14名の専任教員が、古代から近現代までの日本・アジア・西洋の歴史を教授します。日本と世界の両方に立脚した多角的な学びが可能です。

4 豊富な史料と高度な研究

学内には、アメリカ研究などの分野において国内最多レベルの史料を所蔵。豊富な史料を活用し高度な研究を行うことができます。

取得可能な資格

中学校教諭一種（社会）／高等学校教諭一種（地理歴史、公民）／博物館学芸員*／図書館司書*／学校図書館司書教諭*／小学校教諭一種*

※全学科共通で取得可能な資格

科目紹介

日本地域史研究

中世末期から近現代にかけての地域社会の歴史的なあり方について、具体的な町や村の文書を取り上げ読み解きます。またフィールドワークも試み、史料との比較検討を行います。

東洋文化史概説

春学期は、現在の中国の首都・北京のあゆみを軸として、古代から清の時代までを、秋学期は近代・現代を取り上げて、中国・東アジアの歴史を概観します。現代にも通じる中国社会や東アジア国際関係の諸相を具体例を通してみていきます。

西洋・東洋文化史実地演習

実際に史跡・博物館を訪れて歴史の現場を直に体験するとともに、協定大学等で本場の授業を受け、現地の大学生と交流します。過去にはイタリア・台湾で実施しました。

ゼミ紹介

星野 将治 さん
4年次生
〈演習担当者〉
城地 孝 准教授

ご自身の研究テーマを教えてください

明の初代皇帝・洪武帝によって創始された「死者祭祀」に注目し、その一端を明らかにすることを試みています。私が所属する中国史のゼミでは秦王朝から清王朝まで、西暦で言えば紀元前200年ごろから1900年代に至るまでと幅広い時代を扱っています。領域もさまざまで、政治史に限らず社会・経済史や思想史などに関する研究が行われています。

どのような力がゼミで身につきましたか

テキストの真意を推察する力です。中国では儒教に基づく治世を理想としながらも、実際には儒教に反する判断が必要な場面が多々ありました。この際、為政者の立場を守るため、公的文書では建前として儒教の教えに従い、あえて本意とは異なる記述を残す場合があります。資料の記述を鵜呑みにせず、多角的に考える習慣が身につきました。

将来の夢は何ですか

明確に定まってはいませんが、大学院への進学を考えています。ゼミでの学びを通じて、史学には単に資料に記された事実を明らかにするだけでなく、それをもとに当時の世相を緻密に再現し、歴史のリアリティを高められる面白さがあることを知りました。現在の研究テーマをさらに深め、明の時代における社会の実態に迫りたいと思います。

学びを深めた言葉との出会い

理念世界が現実世界に転化したとき、理念と現実との間には当然乖離が生じることになる

―檀上寛『陸海の交錯―明朝の興亡』

史料の記述は書き手の思想に必ずしも直結しないことにハッとさせられました。「儒教」という価値観のなかで生きる人びとが、本音と建前を使い分けていたことに気づかされた一冊です。

学びをひもとくQ&A

Q. 高校までの「歴史」と文化史学科の学びはどう異なりますか？

A. 高校までは「覚える歴史」、大学では「考える歴史」を学びます。「文化史学」とは、史資料の研究やフィールドワークを通じて、狭い意味での「文化」だけではなく、人間のあらゆる活動を総体的かつ有機的に探究・把握しようとする歴史学の方法です。

Read More

多彩な教員が演習を担当します　教員紹介

文化史学科での学びをより深く知る　シラバス検索　学科サイト

国文学科

Department of Japanese Literature

ことばの分析を通して、日本文化の最奥に迫る

過去の叡智に学ぶことで、現代社会はどうあるべきか、自分はどう生きるべきかを問い直す。それが、国文学科の学びの形です。単に作品を読解し、文学史をひもとくだけでなく、「今」に通じる、「今」を見つめる学問として対峙することが求められるのです。古代・中世・近世・近現代の文学研究、日本語研究と多岐にわたる専門領域。それらを芸能や美術、歴史や思想などの分野とも関連させて学ぶことで、今に続く日本文化への理解を深めます。

「社員（教職員）たるものは学生を丁重に扱うこと」という新島襄の教えを受け継ぎ、本学科では少人数制のきめ細かな指導を実施。教員は日本文学・日本語の面白さを「伝えたい」という強い思いで学生に接しています。重要なのは、身につけた日本文化の深い知識を外に向けて発信できる力。自己の立場を土台に、他者との交流を通して、「対話できる個」としての人間力を育んでほしいと考えています。知的好奇心を刺激される日々を通して、学ぶことの喜びに目覚めてください。

学びのキーワード

1 フィールドワーク

能・狂言・歌舞伎の観劇や十二単の着用体験など京都ならではのフィールドワークを通じ、得た貴重な経験を教室での学びに活かすことができます。

2 学生の研究会

古代文学から近現代文学まで、各カテゴリを自主的に研究する学生の研究会があります。主体的に学習に取り組む学生が多いのも国文学科の特徴です。

3 国語科教員

学内で唯一、国語科教員免許を取得できるのが、国文学科です。必修科目の単位数が緩やかなので、国語科教員免許に必要な科目も比較的無理なく組み込めます。

取得可能な資格

中学校教諭一種（国語）／高等学校教諭一種（国語）／博物館学芸員※／図書館司書※／学校図書館司書教諭※／小学校教諭一種※

※全学科共通で取得可能な資格

科目紹介

日本文学特殊講義（中世B）

『平家物語』が描く女武者「巴（ともえ）」の人物像は、中世大力伝承と関わりつつ、さまざまに変容していきます。『平家物語』諸本や中近世文学・芸能資料を通じて、〈巴〉イメージの展開について考えます。

日本語学講読（C）

室町時代に作られた中国の書物の注釈書「抄物（しょうもの）」には、講義の言葉に基づいて書かれたものがあり、日本語史の重要な資料となっています。抄物の言葉を出発点に、話し言葉の歴史を考えます。

日本文学講読（近現代B）

明治期から現代までの文学作品で映像化されたものを取り上げ、映像作品を原作に対する解釈の結果として捉えながら、原作と映像作品との違い、ひいては言語表現と映像表現との違いについて考察します。

ゼミ紹介

中尾 早也香 さん
4年次生
〈演習担当者〉
西川 貴子 教授

ご自身の研究テーマを教えてください

第一次世界大戦から第二次世界大戦の時期における文学作品を対象に研究しています。その中でも、軍医としての経歴も持つ森鴎外の作品や、日本の占領下にあった東南アジア諸国で生まれた日本語の文学作品に焦点を当てています。さまざまな政治的圧力により表現が規制される中、作家たちが何を表現したかったのかを明らかにしたいです。

所属ゼミの魅力は何ですか

研究に真摯に取り組む学生が多く、議論も活発なところです。議論では先生が学生の小さな疑問にも丁寧に答え、意見も述べてくださいます。そのほかにも、作品や作家にゆかりのある土地を訪れる「文学散歩」や、海外姉妹大学の日本文学専攻の学生たちとオンラインで交流する合同授業など、さまざまな学びの機会があるのも魅力です。

ゼミでどのような力が身につきましたか

自分の意見を伝える力です。演習では作品を事前に読解し、他の学生に向けて発表する機会があります。発表を経験するうちに、主張を理解してもらうためには、そこに至るまでの過程も含めて相手に伝えることが重要だと学びました。今では参照した情報や思考の筋道をクリアに整理し、結論を伝えられるようになったと感じています。

学びを深めた言葉との出会い

「学問も因襲を破つて進んで行く。一國の一時代の風尚に肘を掣せられていては、学問は死ぬる。」
―森鴎外『沈黙の塔』
鴎外の学問観、表現者や学者としての矜持が強く伝わり、当時の政治体制への興味が深まりました。作家と周囲の社会状況の関係を扱った論文集をきっかけに出会った一節です。

学びをひもとくQ&A

Q. 卒業論文ではどのようなテーマを扱いますか？

A. 基本的に時代・ジャンルは自由です。日本文学の分野では、『源氏物語』『羅生門』などの作品やその作者、または作品中の「桜」や「夢」といった言葉のイメージなどを調査します。日本語学の分野では文法や特定の言葉の意味について深く調べることができます。

Read More

多彩な教員が演習を担当します　教員紹介

国文学科での学びをより深く知る　シラバス検索　学科サイト

教員研究紹介

人文学への誘い

Invitation for Humanities

幅広い領域をカバーする文学部の教員たち。
その多彩な研究テーマから、人文学の魅力に迫ります。

英文学科

英単語を覚える仕組みを解明し、英語教育実践への応用を目指す

私は英語教育学を専門としており、中でも語彙学習のメカニズムを主な研究テーマとしています。研究ではさまざまな条件下で英単語の学習をしてもらい、その様子や結果について考察しています。1つの研究ですべてを明らかにすることは難しく、何度も失敗を繰り返しながら、少しずつメカニズムを解明していきます。一筋縄ではいかない作業ですが、研究を重ねる中で未知の法則を垣間見る瞬間にはやりがいを感じます。今後は基礎研究にあたるこれまでの研究成果を、教育場面で実践できるような応用研究に発展させたいと考えています。

鬼田 崇作 准教授

哲学科

人間が築き上げた知的遺産「ギリシア哲学」「聖書」に触れる学問

「存在とは何か」。この問いを追究するために、20世紀のさまざまなフランス哲学者の著作を研究しています。現在、世の中に存在する数多くの思想はいずれも西洋哲学に端を発しますが、この西洋哲学の歴史を形作ったのがギリシア哲学と聖書。人類史上最大の知的遺産と言えるでしょう。興味深いのはどちらも同じ「人間」の思考の所産だという点です。哲学の研究を通してこの知的営為に触れることは、到底人間が作ったとは思えないような建造物や遺跡の建造過程に触れるようなものであり、尽きることのない興味をかきたてられます。

服部 敬弘 准教授

美学芸術学科

ウィーン分離派の活動や作品を芸術家の視点に立って研究

オーストリアの芸術家グスタフ・クリムトが仲間と立ち上げた「ウィーン分離派」。私は彼らの作品や活動に焦点を当て、ウィーンの世紀末文化を捉えることを試みています。自身の作品について、クリムトは自分の言葉をほとんど残しませんでした。そのため、研究では、彼が残した大量の素描をもとに、他作品からの影響や完成作品との関係性を分析しました。言葉を介さず作品の真意に迫るのは困難を極めましたが、ウィーンのアルベルティーナ美術館で、初めて直接彼の素描を見た時のワクワクは今も忘れません。

前田 朋美 助教

文化史学科

文化史学とは、過去の人々の思考や感性の「かたち」を捉える学問です

日本のように王朝交代がなかった国は世界でも稀です。実務官僚に支えられた合議制による国政運営、排他的血族意識の希薄さ、これが贅を尽くした専制政治や暴力による国家転覆が引き起こされなかった理由です。私はこの安定した国制が作られた日本古代に焦点を当てて、その形成過程と運営実態を研究しています。歴史の事実を復元するだけではなく、過去の人々の思考や価値観に迫るのが文化史学の醍醐味。時代の制約のなかで人々が必死に作り上げてきた生き方、その試行錯誤の歩みをトレースするのが文化史学なのです。

北 康宏 教授

国文学科

「物語」に表された多様な声に耳を澄ます

語り難い状況にある時、物語は声をあげる手段でもありました。私が研究している近代女性作家の作品は、女性の公の場での言論が困難だった時代に描かれました。こうした作品には、当時はまだ認知もされていなかったジェンダーやセクシュアリティに関する問題を提起し、その変動を訴えようとする姿勢が認められます。「物語」は問題を読者に語りかけ、時空を超えて共有し、連帯を生む器のような役割を持っています。文学研究を通して作品に託された多様な声を受けとめ、見えてくる問題を継承し考えていきたいと思っています。

笹尾 佳代 准教授

学びを究め、未来を見据える4年間

同志社大学文学部では、すべての学科で教員免許や学芸員、司書資格の取得が可能。
自身の描く将来像に合わせて、自由に学びを組み立てられます。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目			
専門科目：基礎演習（少人数制の授業で資料の調べ方や論文の読み方を学び、3年次からの演習に備えます。）／講義		ゼミ決定／演習／卒業論文執筆	
免許・資格：関連科目		実習（免許・資格取得に必要な専門知識を修得した後、現地でスキルを身につける実習に参加します。）	

教員志望

茂さんの場合

茂 和哉 さん
哲学科
4年次生

1年次
海外滞在時の経験をきっかけに教員を志し、教職課程の履修を開始。

2年次
専門科目を重点的に学びながら、教職に必要な単位も着々と取得。

3年次
専門科目はゼミに注力し、その他の時間で教職科目を集中して履修。

4年次
これまでに培った知識と経験を活かし、教育実習へ臨む。

異国の地で学びをサポートしてくれた恩師のような教育者になりたい

小学校6年生の時に父の仕事の都合で渡米し、現地で5年間を過ごしました。言語の壁もありクラスになじめずにいた自分を、担任の先生が熱心に支えてくれたのがきっかけで、将来の進路として教員を意識するように。そして同志社大学へ入学後、教職課程の履修を始めました。2年次の「生徒・進路指導の理論と方法」では生徒への向き合い方を学び、「一人ひとりの人生を支援できる教員になりたい」と、自分にとっての理想の教育者像を見つけられました。

「生徒を成長させる」という教育者の存在意義を再認識した

「社会科教育法」では学生自ら模擬授業を行い、教科教育を実践的に学びます。講義で印象的だったのは、指導教員の「毎回の授業にテーマを設けて、生徒にどんな力を身につけさせたいか明確にしなさい」という言葉。ペース配分ばかり気にしていた自分にとって、生徒の成長を支えるという教員の本質を再認識する良い機会になりました。教育実習ではこうした学びを実践しながら、現場で活躍する先生方からしか学べないことを吸収したいです。

学芸員志望

北谷さんの場合

北谷 源太 さん
文化史学科
4年次生

1年次
専門科目で歴史研究の基礎を学ぶ中で、「仏教美術」に出会う。

2年次
日本史を幅広く履修し、歴史を語り継ぐ大切さを学ぶ。

3年次
ゼミに所属し仏教美術の学びを深めつつ、「博物館実習」に参加。

4年次
学芸員として活躍するため、大学院を目指す。

本物に触れる中で知った歴史の面白さ。その魅力を伝える職業に就きたいと考えた

子どもの頃から興味のあった日本の歴史をより深く学びたいと考え、文化史学科に入学。博物館学芸員課程は、入学時に「取得すれば、将来何かの役に立つのでは」と何気なく履修を始めました。しかし、基礎演習など学科の専門科目で寺社に赴き、仏像や仏具などの歴史資料を直接見て学ぶうち、歴史の面白さを実感。研究や保全活動、そして展示を通じた一般層への周知など、幅広く歴史資料に携われる学芸員になりたいと考えました。

連綿と受け継がれてきた文化の一端を担うやりがいと責任を博物館実習で実感

学芸員の履修課程で印象に残っているのは、「博物館実習」で参加した、東寺での文献調査です。東寺で実際に使用されている仏教の経典を手に取り、内容を記録する作業を行いました。仏教の世界では、経典は単なる書物ではなく魂のこもった大切な存在です。僧侶の方々が丁寧に経典を扱う姿を間近で見て、歴史資料を扱うことに対するやりがいと、後世へつなぐことの大きな責任を改めて実感。学芸員への志を一層高められました。

文学部から続く道

卒業生インタビュー

Graduate Interviews

自らの知的好奇心をとことん追求して養われた豊かな感性や知性、その過程で身につけた社会人基礎力…。文学部での学びは、卒業生たちの確かな自信につながっています。

英文学科

英語教育学で深めた言語習得のための知識を授業に活かし、「学ぶ楽しさ」を伝える

静岡県菊川市立菊川西中学校
教員（英語科）
村井 太紀さん（2022年度卒業）

中学時代から憧れていた教員を目指し、英語教育学を学べる同志社大学の英文学科に進学しました。現在は静岡県菊川市の中学校で英語教員として勤務しています。専攻した英語教育学では、言語習得に特化したゼミに所属。英語を効率的に学習する方法について学びを深めました。現在はその知識を自身の授業で活用しています。また、担任も任されており、生徒指導やクラス運営、成績評価、学校行事の準備など多岐にわたる業務を担当しています。教科指導では、英語学習のポイントを提示し、生徒自身の言葉で表現を考えられるような授業づくりに注力。生徒が積極的に取り組んで成長する姿にやりがいを感じています。これからも生徒が主体的に取り組める授業を心がけ、「わかった!」という体験を引き出して英語を楽しく学んでもらえるよう、努力したいと思います。

就職先例 （2023年4月採用）

- 教員
- 国家公務員（一般職）
- 株式会社JALスカイ
- ANAエアポートサービス株式会社
- 日本生命保険相互会社
- 株式会社NTTドコモ
- 双日株式会社
- 任天堂株式会社
- 本田技研工業株式会社
- 株式会社リクルート

哲学科

哲学科で身につけた「自ら考える力」は、どんな仕事でも必要な力として役立っています

株式会社都市環境設計
設計部
金森 夏菜さん（2020年度卒業）

高校時代に受けた倫理の授業で哲学に興味を持ち、物事を鵜呑みにせず自ら考える力を身につけたいと思い、哲学科に進学。ゼミでは現象学をテーマに、自分と他者との存在の関係性について研究していました。文献や情報をもとに考える力と、ゼミでの発表資料や卒業論文の作成で培われた文章力はどのような仕事でも求められる社会人の基礎として今も役に立っています。卒業後、一度は銀行営業の職に就いたものの、ものづくりに携わりたいという思いから、建築設計の道へ進むことに。現在は専門学校に通い一級建築士の資格取得を目指しつつ、会社では改修予定の建物の図面を作成しています。資格取得後は大学で学んだ現象学と建築を融合させ、建物だけではなくそこで過ごす人々にも目を向けた空間づくりを手がけることが夢です。

就職先例 （2023年4月採用）

- 国家公務員（一般職）
- 野村證券株式会社
- 株式会社朝日新聞社
- ANA大阪空港株式会社
- 楽天グループ株式会社
- 東京電力ホールディングス株式会社
- 星野リゾートグループ
- 株式会社近鉄百貨店
- 株式会社ミネルヴァ書房
- アビームコンサルティング株式会社

美学芸術学科

美学芸術学科での研究を通して問題に取り組む姿勢を学びました

和泉市役所 広報・協働推進室
公民協働推進担当 主事
大塚 凌弥さん（2022年度卒業）

美学芸術学科が扱う研究対象の多様さに惹かれ、さまざまな芸術を学術的な視点で捉えられるようになりたいと思い、美学芸術学科へ進学しました。卒業後は久保惣記念美術館を有し、魅力的な工芸や歴史を持つ和泉市で文化や芸術に携わる仕事を目指して、同市の市役所に入庁。現在は企業・大学等と協力して市民サービスの向上や課題解決に取り組む公民連携や、町会・自治会、NPO法人などを担当しています。法的な業務や民間企業との調整には責任が伴い難しさもありますが、感謝された瞬間や、仕事の成果が形になった時にやりがいを感じています。美学芸術学科での研究を通して学んだ「正解がない問題に取り組む姿勢」や「批判的思考」を活かして、前例にとらわれないよう心がけ、責任をもって仕事に取り組んでいます。将来的には和泉市の文化を盛り上げる業務にも携わっていきたいと考えています。

就職先例 （2023年4月採用）

- 京都市
- 東京都特別区職員
- 国家公務員（一般職）
- 株式会社村田製作所
- 凸版印刷株式会社
- 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
- 山崎製パン株式会社
- 株式会社良品計画
- 京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社
- 寺田倉庫株式会社

文化史学科

文化史学科で培った広範な知見から、生徒により良い学びを提供したい

神奈川県立大磯高等学校
教員（地歴公民科）
井上 渚沙さん（2019年度卒業）

日本の歴史の中心地だった憧れの京都で学びたいと考え、文化史学科に進学しました。在学中は日本史や西洋史、東洋史などの歴史学に加え、人文地理学や民俗学、考古学などを横断的に学ぶことができ、知識や考え方が広がったと感じています。また、演習科目で佐渡島の能を扱った際には現地に赴いて調査をするなど、歴史を肌で感じ自分で考える面白さを経験しました。現在は地歴公民科の高校教員として、日本史を教えています。学科で培った幅広い知識や、学生時代に神社や史跡を訪れた経験は、授業づくりに直接役立っています。生徒との接し方や授業方法に悩みながらも、懸命に準備すると生徒たちが応えてくれ、とても嬉しく思います。今後は探究型の授業も取り入れ、生徒たちがより「歴史を考える面白さ」を感じられるような学びの機会を提供したいです。

就職先例 （2023年4月採用）

- 大阪市
- 国家公務員（一般職）
- 独立行政法人造幣局
- 中日本高速道路株式会社
- 第一生命保険株式会社
- 川崎重工業株式会社
- スズキ株式会社
- 株式会社村田製作所
- 東映アニメーション株式会社
- 株式会社梅田芸術劇場

国文学科

国文学科で身についた、構成力や論理的思考が現在の業務に直結

読売新聞東京本社
ビジネス局
溝端 環太郎さん（2021年度卒業）

小説や国語の授業など、普段から触れている「言葉」に興味があり、国文学科に進学。大学卒業後も言葉に携わる仕事がしたいと考え、読売新聞社に就職しました。現在の業務は新聞広告の営業で、レジャーやホテル、旅行業界への広告提案やマーケティング活動などを行っています。新聞広告は限られた紙面の中で、画像と言葉のみで構成されるのが基本。その分、言葉が持つ影響力が大きく、大学での学びが活かされていると感じます。また、大学の課題や発表を通して培われた「考えを論理的にわかりやすく伝える構成力」や「論理的思考」は、日々の営業活動で大いに役立っています。読売新聞は2024年に創刊150周年を迎える全国紙。全国各地の人々の目に触れる情報媒体に関われることに大きなやりがいを感じます。今後もゼミで育んだ力をもとに、さまざまな経験を積みたいです。

就職先例 （2023年4月採用）

- 教員
- 国家公務員（一般職）
- 日本放送協会
- 関西テレビ放送株式会社
- 株式会社テレビ東京
- 株式会社読売広告社
- 野村證券株式会社
- 富士通株式会社
- 株式会社村田製作所
- 株式会社京都銀行

2025年度入試情報

試験方法	英文学科	哲学科	美学芸術学科	文化史学科	国文学科
一般選抜入学試験	○	○	○	○	○
大学入学共通テストを利用する入学試験	○	○	○	○	○
公募制推薦選抜入学試験	○	—	○	—	○
外国人留学生入学試験	○	○	○	○	○

一般選抜入学試験

学力検査を中心とした選抜方法です。「全学部日程（文系）」と「個別日程」合わせて最大2回の受験が可能です。

大学入学共通テストを利用する入学試験

大学入学共通テストの出題教科・科目のうち、各学科が指定する教科・科目についての成績や個別学力検査などにより、総合的に選抜します。
（個別学力検査は英文学科A方式のみ実施します）

公募制推薦選抜入学試験

英文学科、美学芸術学科、国文学科で学ぶことを強く希望し、入学後の勉学に明確な志向と意欲を持つ者を対象に選考を行います。
出願にあたっては各学科で独自の出願資格を定めています。

その他

- 一般指定校制推薦入学試験
- 「キリスト教主義学校連携ネットワーク」推薦入学試験
- 上海日本人学校高等部推薦入学試験
- 同志社国際学院国際部推薦入学試験
- 法人内諸学校推薦入学試験

※対象の高等学校からの推薦者が受験できる入学試験です。一般の受験生は受験できません。

→詳細は、『入学試験要項』『同志社大学入試ガイド2025』、本学ウェブサイトなどをご参照ください。
https://gakubunyushi.doshisha.ac.jp/

アクセスマップ

DOSHISHA UNIVERSITY

OPEN CAMPUS 2024

〈今出川キャンパス〉　〈京田辺キャンパス〉

オープンキャンパスの詳細は
本学ウェブサイトにてご確認ください。
参加には事前の申込・登録が必要です。
https://gakubunyushi.doshisha.ac.jp/

今出川キャンパス教務センター（文学部）
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 良心館1F　TEL.075-251-3361　FAX.075-251-3064
E-mail.ji-bunjm@mail.doshisha.ac.jp　URL.https://letters.doshisha.ac.jp

同志社大学
https://www.doshisha.ac.jp